

第3回 都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会

議事要旨

日時	2022年3月14日(月) 10:30~12:30			
場所	Zoom			
出席者 (※はオンライン参加)	委員長	東京農業大学 名誉教授	蓑茂 寿太郎	
	委員	千葉大学 園芸学研究院 教授	秋田 典子	
		東京都市大学 都市生活学部 教授	坂井 文	
		NPO 法人 Green Connection TOKYO 代表理事	佐藤 留美	
		東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授	出口 敦	
		中央大学研究開発機構 機構教授(客員研究員)	椰野 良明	
		東京都建設局公園緑地部 公園計画担当部長	根来 千秋	
		豊田市都市整備部 部長	阿久津 正典	
		神戸市建設局 公園担当局長	広脇 淳	
	ゲストスピーカー	森ビル株式会社 都市開発本部 計画企画部 都市政策企画室 部長	成吉 栄	
		(一社) みんなの公園愛護会 代表代理	深澤 幸郎	
		株式会社日本総合研究所 プリンシパル	東 博暢	
	事務局	国土交通省 公園緑地・景観課	公園緑地・景観課長	五十嵐 康之
			公園緑地事業調整官	舟久保 敏
			公園利用推進官	秋山 義典
			利用企画係長	玉那覇 綾子
		株式会社日本総合研究所		河合 孝哉
		牛島 美友		
		檜原 采佳		
資料	委員名簿 資料1 第2回検討会の意見概要 資料2 ゲストスピーカープレゼン資料 (森ビル株式会社 都市政策企画室 成吉栄 部長) 資料3 ゲストスピーカープレゼン資料 ((一社) みんなの公園愛護会 梶田里佳 代表) 資料4 ゲストスピーカープレゼン資料 (株式会社日本総合研究所 東 博暢 プリンシパル) 資料5 今後の検討の方向性 参考資料1 第2回検討会議事要旨			

■議事内容

1. 開会

- ・ 事務局より挨拶、配布資料の確認

2. 委員紹介

- ・ 事務局よりゲストスピーカーを紹介

3. 資料説明

- ・ 資料1について、事務局より説明。
- ・ 補足説明や意見があればご発言いただきたい。
 - NPO Birth から中間支援組織の運営体制の話題提供があった。公園運営の柔軟化の実現には新たなマネジメントの仕組みが重要である。中間支援組織の必要性、パークマネジメントとエリアマネジメントの連携、こういった形でチームを運営しているか体制面の3点を記載していただきたい。

4. 議事

(1) ゲストスピーカーからの話題提供

- ・ 資料2を基に、森ビル株式会社 都市政策企画室 成吉部長より話題提供。
- ・ 資料2について、質問があればご発言いただきたい。
- ・ 資料2の P18 緑被面積合計推移について、具体的に生態系の保全はどの様に進めているのか。
 - (公財) 日本生態系協会の指導を受けており、JHEP の認証を取得している。六本木ヒルズでは従前の植物の移植をして、生態系の保全に努めている。
- ・ 資料3を基に、(一社) みんなの公園愛護会 深澤代表代理より話題提供。
- ・ 資料3について、質問があればご発言いただきたい。
- ・ ボランティア・自治体への調査を実施しているが、中間支援組織についても調査をしているのか。また調査の資金はどのように確保しているか。
 - 中間支援組織は公園の運営においてコアな存在になると考えており、コミュニケーションをとっていききたいと考えているが、調査は実施していない。当団体は団体メンバー個人による資金拠出及びDXを活用した自動化による効率的な運営をしており、実費の発生は少額に抑えられている。助成金・補助金も取得しているが、金額は大きくない。自治体DXを推進する立場であるため、当団体自身もDXを推進し、業務の自動化が進んでいる。
- ・ 資料4を基に、株式会社日本総合研究所 東プリンシパルより話題提供。
- ・ 資料4について、質問があればご発言いただきたい。
- ・ コンソーシアム関係事業者は10社程度か。企業数が多くなければ検討できないため10社なのか、興味のある企業が10社残ったということなのか。
 - 最終的には8社であり、プロジェクトに興味のある企業が残っている。参加企業が増えることは望ましく、その全体をどう最適化するか、構築するかが重要である。
- ・ NPO birthでは複数の公園を包括管理するアプリを構築・運用している。管理者だけでなく利用者参加型での運用も検討している。紹介事例では利用者も情報をあげられるようになっているのか。

- ▶ 現時点ではそこまで至っていない。事業者だけでなく利用者までに広げていくことで、公園の管理がスムーズになると考えている。
- ・ 国の管理している公園は広大であるため、本取り組みは他の公園でも参考にできるのではないかと。公園の維持管理を省力化するにあたって何が最も有効な要素となっているか。また公園 DX におけるデータのデジタル化については、ベースマップに情報を追加していく方式か、クラウド的に情報を組み合わせていく方式のどちらか。
 - ▶ インパクトがあるのは巡回の労力と情報処理の省力化。タブレット利用を促進しており、次年度以降は公園管理会社に管理アプリを実装することになった。またクラウド型の台帳に情報を集約できるようにしているが、文化庁のデータ容量の大きい点群データ等はデジタルアーカイブ化をしておき、分けて考える必要があると考えている。アプリケーションで参照するデータを変えていくように対応している。

(2) 意見交換

- ・ ゲストスピーカーからの話題提供について、順番に発言していただきたい。
- ・ 民間都市開発には整備・維持管理と利用・再々開発という3つの段階がある。整備の段階は緑化率を高める取組みがすでにあるが、維持管理・再々開発（都市機能更新）の際に緑をどう充実させるかの議論が必要。複合開発であれば、都市開発の事業制度を活用しているため、緑の維持管理についても入れ込んでもよいのではないかと。維持管理という観点では、小規模開発において緑化の管理・モニタリング・評価をどう進めていくのかについても検討が必要。緑を都市アセットとして考えて議論していく必要がある。
- ・ 小規模公園を市民が管理する際には課題があると前回までの検討会で確認した。海外事例では、NY市と市の都市公園基金が Partnerships for Parks (PFP) を作り、PFP が公園に関わりたい市民をサポートして、小中規模公園の管理・イベントをしている。どこか大きな自治体で、自治体と市民の間を取り持つ中間支援組織の仕組みができると良いと考えている。また、「中間支援組織」という言葉が表す内容は人によって解釈が異なる可能性があるため注意が必要である。
- ・ 公園台帳を作成し、公園の維持管理を効率化することと公園利用サービスを向上させることは重要だと改めて感じた。広域公園でのデータ戦略を作り上げて、そのシステムを都市や、他の公園へ展開していくことが可能であると考えている。DX による公園の維持管理の効率化と公園利用サービスの向上、それが行き来するプラットフォームの整備を進める必要がある。
- ・ 公園・道路・空地それぞれでは制度が整いつつあるが、それらが連携してワンストップで活用する制度の整備というのは大事な視点で、海外では管理者が共通しているためワンストップ化が可能となっているが、日本では管理者が異なるため課題になっている。また、緑の管理における収益性確保の必要性についてはもっともな意見であり、民

間による公益性のある緑のマネジメントにあたっては収益性を認める必要があるだろう。森ビルにおいては港区など行政とともに緑を作ることについてどのように考えているか。

▶ 港区では賑わい公園づくり推進計画があるが、公園での賑わいづくりに民間の参加を緩和するとある。P-PFIについても活用を検討するとなっている。また港区の緑の評価軸は一人当たりの緑化面積であるが、他の民間事業者も緑化を行うようになり、面積が増えてきた。港区としても緑化に力を入れてきていると感じるので、今後、協力して事業を進めていきたい。

- ・ 中間支援組織・ボランティアは成立していると有難いが、高齢化などの問題を抱えているため、財源をもって支援していくことがこれからはスタンダードにならないといけない。中間支援組織をバックアップする財源措置も考えていかないといけない。みんなの公園愛護会の発表で公園の評価システムの話があったが、公園の評価基準について考えがあれば教えてほしい。
 - ▶ 当団体での取り組みは小規模公園の取り組みをどう評価するかに特化している。既存の評価軸では評価できないような、地域の方々との交流イベントの評価など、評価軸を多様に作り評価したいと考えている。
- ・ 公園 DX の取り組みの中には利用者にとって歴史体験サービス、モビリティの向上があるという話だったが、DX を進めることで利用者にとって他にどのようなメリットがあるのか教えてほしい。
- ・ 公園の規模に関わらず、柔軟な管理の実現にはデータ活用がキーだと考える。利用者データ・管理者データ・天候データ等を組み合わせることで、多くの人が公園の管理に関わることができるのではないか。
- ・ 小規模な公園の広域連携があるが、公共施設の再編という観点から自治体の連携を考えると良いのではないか。
- ・ 公園活用においては、経済活動に寄与するもの、人の心・体に寄与するもの等、評価軸を整理しながら進められれば良いのではないか。
- ・ 維持管理の面では、今までの規制をどこまで緩和していくのか。民間誘導の中で、どこまで柔軟化していくのか検討する必要がある。合わせて資金面の支援では、何らかの財源措置が必要になると感じた。
- ・ 公園と市民のつなぎ方には、民間企業、中間支援組織・ボランティア、DX の3点があると感じた。受け手側であった市民は利用者・担い手の二面性があり、行政の負担軽減としては担い手としての市民に期待するので、前述の3点を踏まえてどういった仕組みが必要になるのか考えていかないといけない。
- ・ 公園の維持管理においてもオープンデータ化を進める必要があると感じたが、データは価値のあるものであるため、他の施設ではどう整理しているのかを示しながら検討していただきたい。

- ・ グリーンコミュニティをどう作っていくのか、地域の教育、福祉、防災、医療への貢献をどう進めていくのか期待したい。
- ・ みんなの公園愛護会が実施しているボランティア活動に関する調査は是非継続していただきたい。成功事例から共通項を見出し、他地域へ展開できるような仕組みがあれば良い。また、中間支援組織はサステナブルシティの形成に公園緑地を活かすことを軸にする必要がある。緑の質を担保して、コミュニティを形成し、経済活性化につなげるという3本柱をパートナーシップとして形成することが中間支援組織の役割であるため、その機能を展開できると良い。
- ・ 公園関連のデータについては、台帳など情報が古かったり散逸している公園も少なくない。苦情・要望をていねいに集めて分析することで管理の効率化につなげることができる。そのような情報を重ねて活用できる管理アプリはとても魅力的だが、全国の公園緑地で活用したり比較するためには標準化する必要がある。しかし一方で標準化にはさまざまな課題もあり議論が必要である。
- ・ 緑を多く作っても住民から好印象ではないものもあるため、緑の価値の可視化は必要であり、今後検討が必要である。
- ・ 公園愛護会は日本の資産だと考えており、公園の基本であるため、今度も活動を継続してほしい。
- ・ 公園DXは効率化・合理化することで付加価値の創出をすることがポイントである。これまで公園は管理に追われており、付加価値創出まで検討されていなかった。現在の公園指定管理の業務内容は清掃が多くを占めるが、今後の公園指定管理業務にはデータ構築を加える必要があると感じた。また質問であるが、これまでは利用者自身が公園を管理していくことで、公園に対する愛着が生まれてきたが、DXの中ではどのように愛着をはぐくむことができるか。
 - 来園者にとってうれしいことは、イベントの情報を公園の混雑状況等も含めて出すこと。今後重要なのは自治体が公園にどうコミットしていくかであり、フィジカルな空間でどのように楽しんでもらうかという最終目標に向けて、検討を進める必要がある。
- ・ 社会の変化、新しい動き、都市の変容に対応する方法を出していくことが課題になっている。ぜひこのことについて骨太なまとめをしてほしい。

5. 閉会

- ・ 資料5について、事務局より説明。

以 上